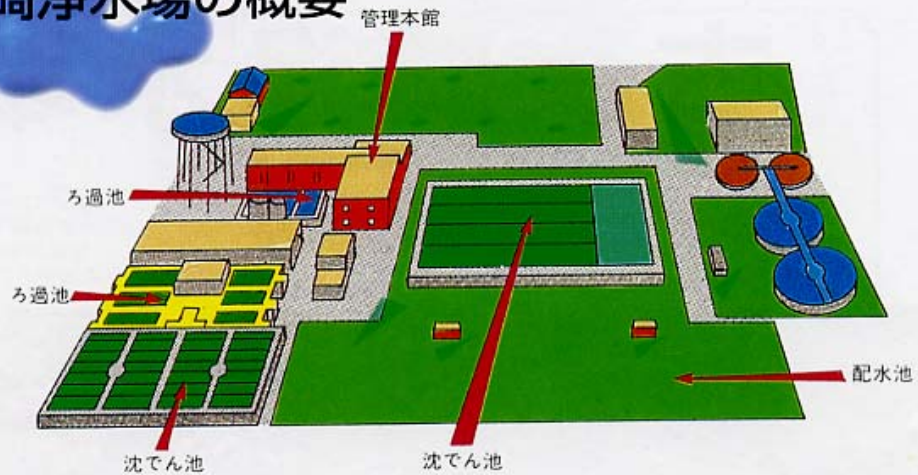


# 古ヶ崎浄水場



千葉県水道局

# 古ヶ崎浄水場の概要



## 1.建設の経過

古ヶ崎浄水場は、千葉分場と並んで県営水道創設時からの施設です。

昭和9年7月5日、千葉県水道事務所が千葉市に設置されると同時に、松戸市伝兵衛新田地先で江戸川の表流水を取水する江戸川水源工場として、施設能力27,000m<sup>3</sup>/日の浄配水施設の建設に着手し、昭和14年に完成しました。

さらに、昭和42年に33,000m<sup>3</sup>/日の浄配水施設の拡張工事を行うとともに、江戸川からの取水地点を松戸市樋野口地先に変更のうえ取水設備の充実を図りました。

## 2.浄水工程のあらまし

松戸市樋野口地先で取水された江戸川の表流水は、沈砂池を経て、浄水場へ送られます。

浄水場へ送られた原水は、着水井に入り、沈でん池、急速ろ過池、塩素滅菌を経て配水池に貯留され、配水ポンプで給水区域に給水しています。

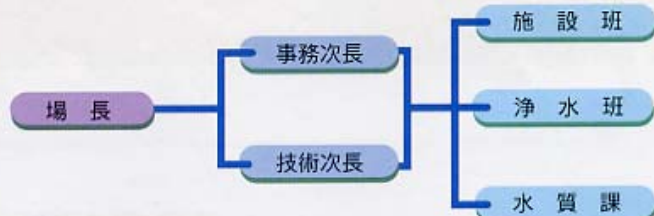
また、江戸川の水質の悪化に対処するため、原水の臭気を解消する活性炭注入設備や水質自動監視装置を設置して、より安定して水を供給できるよう努めています。

なお、水質汚濁防止法の改正により設置を義務づけられた排水処理設備は、1,500m<sup>3</sup>/日の処理能力で昭和53年3月から運転をしています。

## 3.給水区域

昭和15年5月に運転を開始以来、栗山配水塔へ送水し、塔圧によって松戸市、市川市、船橋市、浦安市のほか、水不足に悩んでいた東京都へも一部給水するなど、県営水道の主力浄水場として活躍してきました。栗山浄水場、さらには柏井浄水場の稼働に伴い給水区域は徐々に縮小され、現在では60,000m<sup>3</sup>/日の施設能力で主として松戸市内に給水しています。

組織図



# 水道の水ができるまで



**取水塔**

川から水を取り入れるところ  
です。



**沈砂池**

川からとり入れた水にま  
じっている、砂や小石など  
を沈めてとりのぞきます。



**フロック形成池**

濁りをとりのぞくために、  
パックという薬品を加えて、  
ゆっくりと混ぜ合わせ、濁り  
のかたまりを大きくします。



**沈でん池**

フロック形成池でできた  
大きな濁りのかたまりを沈  
めてとりのぞきます。



**中央管理室**

浄水場施設の集中管理操  
作をするところです。



**ろ過池**

沈でん池でもとりのぞく  
ことができない微細な浮遊  
物をろ過してとりのぞきま  
す。



**塩素滅菌**

ろ過池ですっかりきれい  
になった水に、塩素という  
薬品を入れて殺菌・消毒し  
ます。



**配水ポンプ**

わたしたちが使う水の量  
に応じて、わたしたちの家  
や学校などに水を配ります。



**排水処理設備**

凍結融解法によって無薬  
注で沈でん池やろ過池にた  
まった汚泥を処理します。

